

理科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア	イ
・問題解決の学習過程に沿って学習を進める力	・自然の事物・現象と生活経験や学習経験を関係付ける力

児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）	
第3学年	<p>ア 事象を比較し、差異点や共通点が起きた要因から問題をつくること。</p> <p>イ 生活経験を基に、事象の差異点を見いだしたり自分の問題に対する仮説を立てたりすること。</p>	<p>ア 差異点や共通点が明確になる事象提示を行う。</p> <p>イ 導入時に全員の児童が学習する事象を解釈するために必要に事象を共通体験する活動を取り入れる。</p>	<p>年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。</p> <p>ア 豆電球にあかりをつけよう・磁石の性質</p> <p>イ 太陽の動きと地面のようす・太陽の光</p>	
第4学年	<p>ア 第3学年に加え、根拠を明確にして自分の問題に対する仮説を立てること。</p> <p>イ 自分の問題に対する仮説を設定する際に、今までの生活経験や学習経験と結びつけること。</p>	<p>ア 第3学年に加え、根拠となり得る生活経験や学習経験を想起させる場面を設定する。</p> <p>イ 既習の内容や生活経験を想起させる場面を設定する。</p>	<p>ア・イとも年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。</p> <p>電池のはたらき・とじこめた空気や水・ものの温度と体積・ものあたたまり方・すがたをかえる水</p>	
第5学年	<p>ア 第3、4学年に加え、条件を制御して自分の仮説を検証する実験方法を計画すること。</p> <p>イ 自分の問題に対する仮説を設定する際に、今までの生活経験や学習経験と結びつけること。</p>	<p>ア 第3、4学年に加え、変える条件と変えない条件を実験計画に明記させる。</p> <p>イ 既習の内容や生活経験を想起させる場面を設定する。</p>	<p>ア・イとも年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。</p> <p>植物の成長・ふりこ・もののとけかた</p>	
第6学年	<p>ア 第3～5学年に加え、自分の仮説を検証した結果を考察し、結論を導くこと。</p> <p>イ 考察の際、仮説に対して実験結果を整理したり、問題に対して結論を導き出したりすること。生活経験や学習経験と関係付けて考察したり、結論から新たな問題や日常生活との関わりについて考えること。</p>	<p>ア 第3～5学年に加え、自分の仮説を検証するための実験結果の予想を明記させる。</p> <p>イ 考察の型を提示したり手本となる児童の考察を紹介したりする。</p>	<p>ア・イとも年間を通して実施するが、特に以下の単元で実施する。</p> <p>燃焼の仕組み・水溶液の性質・電気の性質とその利用</p>	

■主体的・対話的な学習活動について

3年 自分と相手の意見とを比較し、相違などを考えながら意見を交流し合う活動を行う。

4年 自分と相手の意見とを比較し、相違などを考えながら、意見を交流し合う活動を行う。

5年 仮説設定、考察過程での議論を重視し、言葉や図などによる説明を通して学級全体の考えを構成する。

6年 仮説設定、考察過程での議論を重視し、言葉や図などによる説明を通して学級全体の考えを構成する。

■授業の終末の工夫

3年～6年 自分の問題や仮説を振り返りながら、実験の結果を考察し、結論を導出する活動を行う。